

11月29日

3年生の主体性が発揮されました

北中初年度は、掃除が月・水・金の週三日設定されています。一日の学業後にそれを位置づけ、気もちのよい雰囲気の中で翌日がスタートできるようにしています。また、部活動の時間を少しでも生み出すことにも関わっています。

しかし、最も期待するのは、「掃除は掃除の時間だけ」というこれまでの常識を打破することです。

汚れや乱れを見付けたら、すぐに掃いたり吐いたり拭いたりする。また、整理整頓したりする。こういう姿を目指しています。「掃除の時間だから掃除をする」では、生活環境の向上に対する意識が高まりきっているとは言えません。「時と場所が設定されているからやる」「掃除をしなくてはならないからやる」こんな掃除では、「主体的な掃除」とは到底言えません。義務ではなく、「自分の気持ちから生まれた素直な行動」を生徒たちに身につけさせたいと考えています。



そんな主体的な掃除が、3年生の中に生まれてきました。帰りがけや早めに登校した時に、汚れにめざとく気づき、すぐさま行動に移す3年生のすばらしい姿がありました。

左の2枚の写真は、3年生の最近の下校前の姿です。黒板のチョーク受けや黒板の下に溜まったチョークの粉を、下校前に取り去っています。



「掃除は掃除の時間に」と杓子定規に考えるのではなく、「汚れているからきれいにする」という素直さが、次の日の気持ちのよいスタートを生み出すことでしょう。損得でものごとを考えたり、目先の楽しみに心を奪われたりしていないところに、3年生のすばらしさを感じます。

次の右の2枚は、今朝の出来事です。朝7時過ぎに登校した3年生の生徒が、生徒玄関を掃除している姿です。

バリアフリーである北中では、毎日341人の生徒が行き来する玄関に多くの砂が運ばれてきます。この日、その砂が生徒玄関の床の上に広がっていた様子が朝日に照らし出され、それに気付いた3年生がすぐに



ほうきを手に取り掃いてくれました。バスの都合でいち早く登校する彼らです。

寒い中歩いてきて本当はのんびりしたいにもかかわらず、全校生徒のために玄関を掃除してくれた生徒たち。これこそが自らの意思で取り組んだ「主体的な掃除」です。こういう姿が「クリエイティブ瑞浪北中学校」を実現させるのです。

